

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第8回総会議事録
- ◇日本惑星科学会第22回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第23回運営委員会議事録
- ◇事務局FAX番号変更および新郵便番号のお知らせ
- ◇電子メールニュースレターへの投稿について
- ◇日本惑星科学会入会案内
- ◇学会誌購読申込み

◇日本惑星科学会第8回総会議事録

開催日時: 1997年9月16日 18:30~18:50

開催場所: 立命館大学びわこくさつキャンパス

出席者数: 85名(内委任状30名)

費に関しては、学会誌が郵政省から学術刊行物として承認を受けたため、次回請求分より大幅に(一冊当たりの郵便料金が現行240円から85円に)減額できる見通しである。

1. 開会宣言

香内総務専門委員長より開会宣言があり、その後、井田会員を議長に、田近会員を書記に選んだ。

第4期上期(1997年度)中間収支報告書

(1997年1月1日~1997年8月25日)

(I 収入の部) → 369ページ

(II 支出の部) → 370ページ

2. 議事

2.1 第4期上期収支の中間報告

渡邊財務専門委員長より、以下の通り第4期上期収支の中間報告があった。

収入・収支はおおむね予算通り執行されている。ただし、収入の部では学会費の納入率が予測よりやや低い。学会員のご協力をお願いしたい。支出の部では、学会誌出版事業費の印刷製本費が、学会誌のページ数増などで予算よりやや超過気味である。一方、同事業費の送料運搬

2.2 第4期下期予算編成・執行方針

渡邊財務専門委員長より、以下の通り第4期下期の予算編成及び執行方針についての説明があった。

例年は、3月の総会で前年度決算と当年度予算の承認を得ている。ところが来年は、総会開催が5月末と例年より遅くなる予定のため、予算執行上問題が生じる。一方、現時点での詳細な予算案作成は不確定要素が多く困難である。そこで、

1. 今総会で下記の来年度予算ガイドラインを

審議・承認する。

2. ガイドラインに基づいて来年2月中に正式な予算案を編成し、運営委員会で暫定的な承認を得る。
 3. 5月の総会での予算案承認までの間、緊急を要する件に関しては、予算案の枠内で暫定執行をする。
- という方針で進めたい。

第4期下期(1998年度)予算ガイドライン

(1998年1月1日～1998年12月31日)

(I 収入の部) → 371ページ

(II 支出の部) → 371ページ

第4期下期執行方針と予算編成内容についてそれぞれ挙手による採決を行ない、どちらも賛成85(内委任状30)、反対0、棄権0で承認された。

3. その他

3.1 合同欧文誌(Earth, Planets and Space)

合同欧文誌の発刊準備状況について比屋根会員より以下の通り報告があった。

テラ学術図書出版との間で、9月中にも正式な契約を取り交わす予定である。購読料については、文部省研究成果助成金および各学会からの補助金によって、年間4200円に設定することができた。これは、郵便料金を除けば、一冊当た

第4期上期(1997年度)中間収支報告書 (1997年1月1日～1997年8月25日)

I 収入の部

(単位: 円)

科 目	予算額	執行額	備 考
会費収入	3,582,000	3,088,800	
一般会費収入	2,346,000	1,882,800	含む海外会員
学生会費収入	616,000	312,000	
賛助会費収入	900,000	700,000	
滞納分納入	302,000	194,000	636,000円のうち
当期分未収会費	△ 582,000	—	
学会誌出版事業収入	70,000	59,500	遊・星・人
講読料	70,000	59,500	個人・機関購読
広告料	0	0	
秋季講演会事業収入	344,000	0	
予稿集頒布収入	130,000	0	
参加費	210,000	0	
雑収入	4,000	0	
寄付金収入	0	0	
雑収入	181,000	72,919	
受取利息	1,000	984	
その他の収入	180,000	71,935	学情入力(春)
当期収入合計 (A)	4,177,000	3,221,219	
前期繰越収支差額	411,375	411,375	
収入合計 (B)	4,588,375	3,632,594	

第4期上期(1997年度)中間収支報告書 (1997年1月1日～1997年8月25日)

II 支出の部

(単位: 円)

科 目	予算額	執行額	備 考
学会誌出版事業費	1,838,000	1,435,900	
印刷製本費	1,300,000	1,059,950	3/4 + 表紙
送料運搬費	519,000	375,950	発送 3/4
保管料	19,000	0	
講演会事業費	668,000	100,000	
合同大会共催事業費	92,000	0	
送料運搬費	92,000	0	
秋季講演会事業費	476,000	0	
予稿集印刷費	164,000	0	
会場費	120,000	0	
送料運搬費	4,000	0	
消耗品費	20,000	0	
諸謝金	144,000	0	
雑費	24,000	0	
夏の学校補助金	100,000	100,000	
管理費(委託事務関連)	1,230,000	494,540	学会事務センター
業務委託費	745,000	218,463	名簿出力・概算払
送料運搬費	470,000	267,550	
ニュースレター送料	276,000	79,360	No. 25, 26
その他送料	194,000	188,190	会員名簿, 会費請求
雑費	15,000	8,527	コピー, 事務通信
管理費(事務局関連)	351,000	156,519	
旅費交通費	147,000	60,800	合同大会受付
通信費	52,000	30,836	専用TEL 電報
送料運搬費	66,000	33,970	会誌著者分等
消耗品費	15,000	10,040	印鑑・ファイル
印刷製本費	38,000	18,900	連絡会news letter
諸謝金	9,000	0	
諸手数料	7,000	1,973	振込手数料
負担金	6,000	0	
雑費	11,000	0	
予備費	501,375	0	
当期支出合計 (C)	4,588,375	2,186,959	
当期収支差額 (A-C)	△ 411,375	1,034,260	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	1,445,653	

り300円にも満たないという低価格が実現されたことを意味する。惑星科学会としては、合同誌参加学会としての責任(編集, 購読, 投稿)を果たすために, 会員には積極的な購読及び投稿をお願いしたい。

3.3 地球惑星科学関連学会連絡会

阿部学会連合等部会長より, 来年度の地球惑星科学関連学会合同大会について, 以下のような報告があった。

来年度の地球惑星科学関連学会合同大会は, 1998年5月26日~29日国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木)で開催される予定である。今回の合同大会では共通セッションと固有セッションの区別は設けない方針

であるため, 従来の惑星科学会固有セッションについても, たとえば「惑星科学」というような名称の共通セッションとして提案する予定である。また, セッション参加人数などの把握の都合上, 惑星科学に関連するテーマの共通セッションあるいはシンポジウムの提案をする予定がある場合は, プログラム委員(田近会員)まで事前に連絡をして欲しい。

3.3 学会開催日程

来年度の日本惑星科学会秋季講演会は, 1998年10月13日~15日(予定)に神戸大学において開催予定である。

第4期下期(1998年度)予算ガイドライン(1998年1月1日~1998年12月31日)

I 収入の部

(単位: 円)

科 目	予算額	前年度予算額	備 考
会費収入	3,600,000	3,582,000	
学会誌出版事業収入	70,000	70,000	遊・星・人
秋季講演会事業収入	350,000	344,000	予稿集・参加費
寄付金収入	0	0	
雑収入	100,000	181,000	
当期収入合計 (A)	4,120,000	4,177,000	
前期繰越収支差額	400,000	411,375	
収入合計 (B)	4,520,000	4,588,375	

II 支出の部

(単位: 円)

科 目	予算額	前年度予算額	備 考
学会誌出版事業費	1,650,000	1,838,000	遊・星・人
講演会事業費	750,000	668,000	春・秋
IUGG準備分担金	100,000	0	
管理費(委託事務関連)	1,300,000	1,230,000	学会事務センター
管理費(事務局関連)	350,000	351,000	
予備費	370,000	501,375	
当期支出合計 (C)	4,520,000	4,588,375	
当期収支差額 (A-C)	△ 400,000	△ 411,375	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	0	

◇日本惑星科学会第22回運営委員会(書面による)議事録

開催日時：1997年6月2日～6月10日

出席者：中澤，水谷，寺沢，阿部，土山，村江，山本，渡部，藤原，福岡，向井，小林，渡邊，井田，田近，杉浦，香内，大谷(期間内に議決返信のあった者を委員会出席とみなした)

議事

1. 日本学術会議惑星科学専門委員会(第17期)委員等の推薦について

日本惑星科学会から日本学術会議の第17期惑星科学専門委員会の委員として中澤 清会長を，オブザーバーとして水谷 仁副会長および武田

弘会員を推薦したい旨の提案があり，了承された。なお，日本惑星科学会から推薦した委員等の候補者が他の学会等からも同時に推薦された場合は中澤会長に調整を一任することもあわせて了承された。

議決確認は総務専門委員長，総務専門委員(荒川)で行ったことを申し添えます。

◇日本惑星科学会第23回運営委員会議事録

開催日時：1997年9月15日17時30分～20時

開催場所：立命館大学草津キャンパス

出席者：中澤，阿部，井田，香内，小林，佐々木，杉浦，高木，田近，土山，福岡，藤原，向井，村江，山本，渡邊(以上出席者)，大谷，寺沢，松井，水谷，林，渡部(以上委任状)，堀内，比屋根(オブザーバー)

1. 報告など

1. 学会員の現況

中澤会長より，9月9日現在の登録会員について以下の通り報告があった。

正会員 (一般)	385名
同 (学生)	133名
賛助会員	10社

2. 合同欧文誌(Earth, Planets and Space)

合同欧文誌の発刊準備状況について比屋根会員より以下の通り報告があった。テラ学術図書出版との間で，9月中にも正式な契約を取り交わす予定である。購読料については，文部省研究成果助成金および各学会からの補助金によって，4200円/巻に設定することができた。購読案内については，学会により対応が異なるので，テラ学術図書出版案をもとに共通の文章を作り，学会ごとに前書き等をつけて配布する。また，Earth, Planets and Space誌にニュースレターセクションを設け，日本からの情報発信の場として積極的に活用することとなった。

惑星科学会としては，合同誌参加学会としての責任(編集，購読，投稿)を果たすために，会員には積極的な購読及び投稿をお願いする。

3. 第4期上期収支の中間報告

渡邊財務専門委員長より、第4期上期収支の中間報告があった(総会議事録参照)。

・収入・収支はおおむね予算通り執行されている。ただし、収入の部では学会費の納入率が予測よりやや低い。学会員のご協力をお願いしたい。支出の部では、学会誌出版事業費の印刷製本費が、学会誌のページ数増などで予算よりやや超過気味である。一方、同事業費の送料運搬費に関しては、学会誌が郵政省から学術刊行物として承認を受けたため、次回請求分より大幅に減額できる見通しである。

4. 「遊星人」の学術刊行物指定

渡邊財務専門委員長より、郵政大臣あて申請中の「日本惑星科学会誌 遊星人」は、平成9年郵政省告示第315号をもって、郵便法第26条第1項第5号に掲げる学術刊行物として指定された旨の報告があった。これによって、これまで1冊240円(書籍小包)だったのが、おそよ85円で送れるようになる。

5. 遊星人の発行状況

村江編集委員長から、「遊星人」は順調に発行されている旨の報告があった。

6. 惑星科学専門委員会

中澤会長より、日本学術会議地球物理学研究連絡委員会第1回惑星科学専門委員会について以下の通り報告があった。

6.1 日時：1997年4月24日 13：30-15：20

場所：日本学術会議第5部会議室

出席者：青木謙一郎、木下宙、藤井直之(以上専門委員)、中澤清、水谷仁、野津憲治、小野高幸(河野長代理)(以上オブザーバー)

6.2 報告、委員長選出

a. 惑星科学専門委員会設置の経緯

青木第4部会員より、本専門委員会設置の経緯について以下のような説明があった。

- ・惑星科学研究連絡委員会新設が、日本学術会議第15期(平成3～6年)に天文学、地球科学分野の会員によって起案され、天文学研究連絡委員会(以下、天文学研連等と略す)、地球物理学研連、鉱物学研連、地球化学・宇宙化学研連などで検討が続いた。
 - ・第16期に入り、地球科学関係会員ならびに地球科学関係研連委員長に対して杉本会員(天文学研連委員長)より惑星科学研連設置についての協力要請があり、各研連で引き続き検討が行われた。検討が進められる中、新研連設置は困難とわかり、地球物理学研連の下で専門委員会として発足させる方策を探った。
 - ・杉本会員、青木会員、上田会員らの努力により、平成8年、地球物理学研連のもとに委員定数3(うち1は天文学研連日食専門委員会から振替、他2は地球物理学研連の地震学研連のポスト、鉱物学研連のポストから振出元研連が人事権を保持した形でそれぞれ1を振替)の惑星科学専門委員会発足させることで、平成8年10月16日、第4部部長に報告された。
 - ・それを受け、平成9年2月28日、日本学術会議総会において惑星科学専門委員会が正式に発足した。
 - ・なお、第17期より、惑星科学専門委員会は地球物理学研連の下、測地学研連や地震学研連等と同列の活動が認められる。
- #### b. 委員会の構成など
- ・惑星科学専門委員会は委員定数3をもつ地球物理学研連下の専門委員会である。

- ・委員定数3のうち, 1については惑星科学専門委員会独自の方法で委員を推薦できるが, 残り2については, 地震学研連, 鉱物学研連から委員が選出される.
 - ・現委員のうち, 木下委員は前者であり, 青木, 藤井委員は後者の委員である.
 - ・研連, 専門委員会は適当な数のオブザーバーをおくことができる. 但し, それに対する旅費などの補助はない.
- c. 第1回委員会の役割
- ・委員長の選出
 - ・第17期(平成9~12年)の委員会の活動が順調にスタートできるよう, 来期の委員会構成, 活動方針を中心とした検討
- d. 委員長の選出
- cに従い, 委員長互選に入り, 委員, オブザーバー全員一致で藤井委員を委員長に選出した.

6.3 議事

a. 第17期の委員会構成

- ・委員の選出
委員1名は日本惑星科学会より推薦願う. 他2名は地震学研連, 鉱物学研連から各1名づつ選出願う.
- ・オブザーバーの数と推薦母体
惑星科学は学際的色彩が強く多くの関連分野との情報交換が必要であることからオブザーバーを6名おく. このうち2名は日本惑星科学会を推薦母体とし, 残り4名は, 日本天文学会, 日本地球化学会, 地球電磁気・地球惑星圏学会ならびに宇宙空間研連からそれぞれ1名づつ推薦願う.
- ・委員, オブザーバーの推薦にかかわる事務は日本惑星科学会事務局が行う.
- ・地震学研連, 鉱物学研連からの委員選出につ

いては, 研連は頻繁に開催されないことから, 推薦依頼を関係学会長宛に行う.

b. 第17期活動方針策定にむけた自由討論

中澤オブザーバーより, 我が国の惑星科学分野のかかえている以下のような問題点の紹介があった.

我が国の惑星探査の推進
地球外物質研究の推進
研究費の確保
人材の育成
国際的な対応

c. 当面の活動方針について

- ・上記bに関連する将来計画を策定するとともに, シンポジウム開催や専門委員会報告, さらに, 測地学審議会や関係機関への提言, 報告などを行う.
- ・科研費細目の「キーワード」に「惑星」を加えるように働きかける. 関連細目の第1段審査員に惑星科学の専門家を加えるように地球物理学研連に働きかける.
- ・国際協力対応に関しては, 国内にも, 国際的にもこの分野の対応が一本化していないことから, まずは情報交換からスタートする.
- ・月惑星探査の中・長期計画の策定に関しては, 日本惑星科学会や宇宙科学研究所, 宇宙開発事業団での検討経緯を見守りながら, 対応を考えていく.

7. 惑星科学専門委員会(第17期)の委員等の推薦

香内総務専門委員長より, 惑星科学専門委員会(第17期)の委員等の推薦に関する経緯と結果に関する報告があった(日本惑星科学会第22回運営委員会議事録参照). 今後, 総務専門委員会で惑星科学専門委員会の委員等の推薦規定案を検討することとなった.

8. 日本学術会議会員候補者

本会は日本学術会議会員候補者として西田篤弘会員を選出したが、日本学術会議事務局から西田篤弘会員を第17期日本学術会議の補欠の会員として決定した旨連絡があった。

9. 平成10年度科学研究費審査員の推薦

香内総務専門委員長より、日本学術会議地球化学・宇宙化学研究連絡委員会より平成10年度の科学研究費審査員(「地球化学」第1段審査員、「地球科学」第2段審査員)の推薦依頼があったが、本会には科学研究費審査員の推薦に関する規定等はなく、次のような方法で審査員を推薦した旨報告された。はじめに、運営委員に候補者を推薦してもらい、そのリストの中から会長・副会長が審査員の候補者を決定した。

なお、総務委員会が中心となって科学研究費審査員の推薦に関する規定案を作成することとなった。

10. 1998年秋季講演会準備状況

向井委員より神戸大学で行われる予定の秋季講演会の準備状況について報告があった。神戸大学の滝川記念学術交流会館で1998年10月13(火)から15日(木)まで行う予定で準備を進めている旨の報告があった。

11. 1999年秋季学会講演会開催候補地について

香内総務専門委員長より、1999年秋季学会講演会の開催候補地の選定作業を進めている旨の説明があった。

2. 議事

運営委員会の成立を確認後、議事に入った。

1. 入会の受理について

中澤会長より、前回運営委員会以後の入会申込者のリストが配布され、申し込み通り受理したい旨、会長より提案があり、了承された。

2. 「大学と科学」公開シンポジウム後援

「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会より依頼のあった公開シンポジウム「マグマと地球」の後援を受け入れたい旨、会長より提案があり、了承された。

3. 第4期下期予算編成・執行方針

渡邊財務専門委員長より、以下の通り第4期下期の予算編成及び執行方針についての説明があった。

例年は、3月の総会で前年度決算と当年度予算の承認を得ている。ところが来年は総会開催が5月末と例年より遅くなる予定のため、予算執行上問題が生じる。一方、現時点での詳細な予算案作成は不確定要素が多く困難である。そこで、

1. 今総会で下記の来年度予算ガイドラインを審議・承認する。
2. ガイドラインに基づいて来年2月中に正式な予算案を編成し、運営委員会で暫定的な承認を得る。
3. 5月の総会での予算案承認までの間、緊急を要する件に関しては、予算案の枠内で暫定執行をする。

という方針で進めたい旨の提案があり、審議の結果、了承された。

4. 第4期下期(1998年度)予算ガイドライン (1998年1月1日～1998年12月31日)

渡邊財務専門委員長より、第4期下期の予算ガイドライン(総会議事録参照)についての説明があり、審議の結果、了承された。

5. 長期会費滞納者への対応

渡邊財務専門委員長より、長期会費滞納者へは日本学会事務センターから督促状を送り、指定期日までに払込のない会員については、会則第10条により、除名処分とすることが提案され、審議の結果、了承された。

また、学生会員の把握の方法(卒業にともなう正会員への変更など)については総務委員会で検討することになった。

6. 2000年WPGM

阿部委員より、2000年に日本で開催される予

定のWPGMに関して、組織委員会から開催時期、場所、開催方法等についての検討要請があったことが説明された。惑星科学会としては、合同大会の時期が毎年変わると学会の運営、特に、予算の審議・執行等に支障が大きいという理由で、下記のような回答をするという結論に達した。

- (1) 合同大会とWPGM同時開催については是非…非
- (2) 合同大会を6月末に開くことの是非…非
- (3) 学会としてのWPGM参加の有無…検討中
- (4) 場所…未検討

◇事務局FAX番号変更および新郵便番号のお知らせ

惑星科学会事務局のFAX番号が変更になりました。新しい番号は、

03-5734-3538

です。ご面倒ですが、短縮ダイヤルの登録等ご確認の上、お間違えの無いようお願いいたします。

また、1998年2月2日から使用される新郵便番

号は、

152-8551

です。

◇電子メールニュースレターへの投稿について

電子メールニュースレターの発行は毎月15日前後に編集発行します。ニュースレターに記事を投稿したい方は毎月10日までに電子メールにより原稿を送付して下さい。宛先は、

JSPSNEWS@geo.titech.ac.jp

です。事務局でレイアウトを多少変更するなど簡易編集はしますが、基本的には投稿原稿をそのままの形で掲載されることになります。

なお、電子メールとしての有効性を守るため、記

事はできるだけ簡潔なものにしていただくようお願いいたします。また、内容によって事務局の判断で掲載不可とさせていただく場合があります。あらかじめご承知おき下さい。また、これまでと同様電子メールニュースレターで流された記事は事務局の判断で学会誌「遊・星・人」に転載することがあります。

(東工大・榎森 啓元)

◇日本惑星科学会入会案内

「日本惑星科学会」は平成4年4月に発足しました。新学会の設立目的は、まず惑星科学それ自体の振興にあります。旧来分野の垣根を取り払い、相互理解や情報交換を積極的に進め、また、異なった手法、異なった対象の研究を集約し総合的な視点にたつて惑星科学を推進することが第一の目的です。また、本格的な惑星探査の時代を迎え、日本の惑星科学界全体として直接、間接に探査計画を支え、さらには将来の探査計画を立案すべく、新学会がその組織化をはかることも重要です。同時に、惑星科学研究の国際的な共同計画に日本の応分の負担と協力が求められている現在、新学会が力量を高め、国際的な窓口としての役割も果たすことになると思われます。更には、惑星科学の成果を社会に還元したり、また、中・高校生など若い人材を惑星科学に勧誘するための広報活動も新学会の重要な責務です。このような日本惑星科学会設立の主旨にご賛同くださり、今後の惑星科学の発展をともに担う広範な分野の方々の入会をお待ちしています。

入会の方法は下記の通りです。

年会費：

6,000円(但し、学生会員は4,000円)

入会手続：

- (a)入会申込書(本誌巻末に綴込まれています)にご記入の上、事務局にご送付下さい。
- (b)運営委員会において入会が認められますと、事務局より入会受理のお手紙を差し上げます。
- (c)その後、(財)日本学会事務センターより年会費請求書が送付されます。請求書に従って年会費をお振り込み願います。なお、入会受理より年会費請求まで遅延があります(最大2ヶ月程度)が、会員としての権利は入会受理と共に発生します。

事務局

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学 理学部 地学内

TEL：03-3720-9885；FAX：03-5734-3538

(財)日本学会事務センター

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9

TEL：03-5814-5801；FAX：03-5814-5820

◇学会誌購読申込み

本誌「遊・星・人」は会員外の方でも1号あたり1,750円(含送料)で購読することができます。購読希望の方は、本誌巻末の「学会誌購読申込カード」に所定の事項をご記入の上、事務局にお申し込み下さい。なお、バックナンバーについては創刊号から購読できますが、発行予定のものについては

同年内発行のものまで(第1号より第4号まで)となっておりますのでご注意ください。

学会事務局が購読申込書を受け取り次第、請求書(他必要書類)、バックナンバー及び最新刊会誌を送付します。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

◇日本惑星科学会第4期役員名簿

会 長

中澤 清 (東工大・理)

副会長

水谷 仁 (宇宙研)

監 事

松田 准一 (阪大・理)

堀内 千尋 (立命館大・理工)

運営委員・財務専門委員長

渡邊 誠一郎 (名大・理)

運営委員・総務専門委員長

香内 晃 (北大・低温研)

運営委員・編集専門委員長

村江 達士 (九大・理)

運営委員・将来計画専門委員長

山本 哲生 (北大・理)

運営委員

大谷 栄治 (東北大・理)

小林 憲正 (横国大・工)

杉浦 直治 (東大・理)

高木 靖彦 (東邦学園短大)

田近 英一 (東大・理)

土山 明 (阪大・理)

寺沢 敏夫 (東大・理)

林 正彦 (天文台)

藤原 顯 (宇宙研)

福岡 孝昭 (学習院大・理)

松井 孝典 (東大・理)

向井 正 (神戸大・理)

渡部 潤一 (天文台)

運営委員・企画部会長

佐々木 晶 (東大・理)

運営委員・学会連合等部会長

阿部 豊 (東大・理)

運営委員・新欧文誌部会長

井田 茂 (東工大・理)

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

1997年11月14日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します(五十音順)

(株)大林組

カメカインスツルメンツ(株)

竹中工務店

日本電気(株)宇宙開発室

(株)パスコ

(株)日立製作所

(株)本田技術研究所

三菱重工業(株)

三菱プレシジョン(株)

(財)リモートセンシング技術センター